

当時の死者



原爆が人体におよぼした影響

・熱線・爆風・放射線があげられます。

熱線のすさまじさは通常の火傷では考えられない被害をもたらしました。

重傷になると表皮は焼けたただれて、ズルズルとはがれ落ち皮下の組織や骨までが露出しました。

爆風

- すさまじい爆風によって人々は吹き飛ばされ散弾のような無数のガラスや杭を全身にあびました。

放射線

- 放射線は身体の奥深くを傷つけ時がたつにつれて様々な症状を引き起こしました。

爆心地から、1,2キロメートルではその日のうちにほぼ50%が死亡し、それよりも爆心地に近い地域では80～100%と、推定されています。

また即死あるいは即日死をまぬがれた人でも近距離で被爆し傷害重い人ほどその後の死亡率が高くなりました。